

1、進め方の決定

読みこなす

意見交換

結論づくり

要望かどうか？

自分たちのこと
行政に対して

意識の高い人
(啓発)
意識の低い人

2、意見交換では...

先ず個人の意見を頂きました。

全体を見極めながら、良い
会議になる提案にするには？

岸和田では概ね提案事項を実施している。

役所側だけでなく、市民側にも問題

岸和田市で使えるようにするには

ま
と
め

市民団体と行政で
もっと連携しよう！

共に学ぼう！！

一緒につくろ！
もっとコミュニケーションを
とろう！！



A班(柿、上、山、充、魚、春)

公募委員の枠を広げよう！
(岸和田市)
・ 10名まで1名公募
・ 10名以上2名公募
10年前から会長だけにしない
副会長OK、適切な人選
指針 条例化

行政と市民が役割分担をしながら運営しよう！
(岸和田市)
・ 審議会シナリオは行政が作ってる。でないと進行できない。NPOが育つと良いんだけど・・・。
・ 行政主導は上手く行かない。
市民によるファシリテーション
(事前研修で市民力UP)

必要に応じて庁内各部局が連携しよう！
(岸和田市)
・ 上層部のやわらかい頭が必要。
・ 職員評価を実施すべし
・ 各課で取り組んでいる。だが連携して推進できるしくみの構築(システム構築はできていない)
システムづくり

日時、議事回数等は市民ニーズを基準にしよう！
(岸和田市)
・ 委員会の時にみんなに次の会議日の都合を聞く
・ 市民ニーズに沿った内容にするべき
・ でも岸和田でもニーズに対応していないのでは
市民主体で

市民の意見の効力を高め、権利を最大限にいかそう！
(岸和田市)
・ 役割分担にしたがって、役割を全うすること
・ 積極的に意見を言える雰囲気作りは行政が作る。
意見を言うヒントは行政が用意

**岸和田市の
現状とアドバイス**

公共を担うパートナーとして学び合おう！
協働

会を設置する時は、広く情報提供しよう！
(岸和田市)
・ HP(行政側の自己満足)、広報
・ ネーミングが悪いから、オモロイ名前にしたら
・ 他には有線、回覧板
アナログな情報

傍聴制度の確立、会議録の公開、パブリックコメント(市民の意見)公募を徹底しよう！
(岸和田市)
・ 岸和田市では施行済み。市民は積極的に活用しよう。活用させる手立てを考える。
・ 自治基本条例を作って
・ 会議録の公開を職務として規定する。
自治基本条例

会の成果を公開し、実際の取り組みにつなげよう！
(岸和田市)
・ 議事録は公開してる。
・ 市民が評価機関に入る。



B班(寺、山、陣、藤、辻)

公募委員の枠を広げよう！

委員会の種類にもよるので、一概に枠を広げることが最善策とは言えないのでは...

- ・ 関心を持って、続けて来てくれるのか不安。
- ・ 公募により参加する人の割合はどのくらいが適当か。
- ・ 代表者は参加すべきである。
- ・ どこまで理解して参加してくれるのが疑問。

日時、議事回数等は市民ニーズを基準にしよう！

“いつまでに”“何回する”を明確にしながら、“またやるか”にも柔軟に！

- ・ 参加する世代・職種に合わせて開催する。
- ・ スケジュールの制約上、回数も制限を受けやすい。
- ・ 始めに期日・回数を決めるが予備日も設ける。
- ・ 食事前の1時間が集中力が高まりやすいので、時間設定に工夫する。

会を設置する時は、広く情報提供しよう！

傍聴制度の確立、会議録の公開、パブリックコメント(市民の意見)公募を徹底しよう！

- ・ どうやって心をつかもう。
- ・ あまり関心のない人にどうやって情報を提供できるか。
- ・ 活字じゃなくて「ピン」とくるものは。
- ・ 映像を活用(岸和田では)。ただしどれ位の人が見てるかはギモンだが。

行政と市民が役割分担をしながら運営しよう！

進行役は力量のある市民でおこなってもらおう。

- ・ 話・発言が出せる環境づくりがポイント。
- ・ 進行役(公民)の力量がポイント。
- ・ 進行役は市民側で、行政誘導型でない感覚

市民の意見の効力を高め、権利を最大限にいかそう！

提案はみんなのエネルギー！！(ムダ無く活かそう)

- ・ ガンガン提案を出してもらえるようにフレーム(制約)を取っ払おう。
- ・ 提案されたモノを反映させる技量・度量を養おう。
- ・ より実践的な準備を(具体的なたたき台など)

会の成果を公開し、実際の取り組みにつなげよう！

成果は通過点だ！

- ・ 成果をもっと公開すべき。
- ・ 成果だけで満足してしまわないように。
- ・ 岸和田ではHPでまめに更新(進捗状況など)してる。
- ・ 評価の仕方をもっと分かりやすく(小中学生でもできるように)
- ・ 市民評価委員制度へつなげよう。

必要に応じて庁内各部局が連携しよう！

各担当の責任を明確にし、意識を共通化した連携が必要！

- ・ 組織レベルの意識の共有が必要。
- ・ 専門分野の仕事が低下しないように。
- ・ 全く違う分野の部局が参加するのも良い。

公共を担うパートナーとして学び合おう！

まちづくりを担うのは私とあなた！

- ・ まずは“地元”からの意識を(市民も行政も)
- ・ 他人事にならず、“地元”にもっと入り込もう(行政職員はオフタイムに関わってみよう)

